

メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行ノ前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滯ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用キサルモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲ササリシ者ハ其登記ヲ爲ササリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府



縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期限内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行

前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一個月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定



ハ合名會社カ設立ヲ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第四百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アツタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ



從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ

決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス



第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス  
第四十七條 商法第百三十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 商法第百六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第百二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス  
第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限り前項ノ規定ヲ準用ス  
第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル



第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ  
商法第百四十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行  
條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ  
得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適  
用セス

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假  
株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第百四  
十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス  
但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタ  
ル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百五條ノ規定ハ商法施  
行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限り之ヲ適用ス

第五十九條 商法第百五十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行  
前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第百八十二條ノ規定ニ依リ

擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社  
及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有  
スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違  
反シタルトキ 其株券 無效トシ 最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス  
取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ  
百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議  
決權ノ制限カ商法第百六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所  
ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在  
ラス

第六十二條 商法第百六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決  
議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商業施  
行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第百六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタ  
ル取締役及ヒ監查役ニハ之ヲ適用セス



第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治産ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルヲ要ス

商法施行前ニ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス



裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタルトキハ

其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得  
商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ



増加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及

ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十五條 保險事業ハ政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

政府ノ免許ヲ得シテ保險事業ヲ營ム者アルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職務ヲ以テ其營業ヲ禁止スルコトヲ得  
前項ノ禁止ニ拘ハラス保險事業ヲ營ム者又ハ之ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員若クハ取締役ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラ



第九十六條 保險事業ハ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第九十七條 保險會社ハ他ノ營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス  
同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業トスルコトヲ得ス

第九十八條 保險會社ノ發起人カ營業ノ免許ヲ請フニハ定款及ヒ左  
ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出タスコトヲ要ス

- 一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍
- 二 普通保險約款

- 三 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法
- 四 責任準備金利用ノ方法

第九十九條 保險會社カ前條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ政府ノ  
認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百條 政府カ第九十八條ニ掲ケタル書類ノ變更ヲ必要ト認ムルト  
キハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第一百一條 政府ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシ  
メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第一百二條 政府カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其營業  
ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反  
シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコト  
ヲ得

前項ニ掲ケタル事由アリト認ムルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因  
リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第一百三條 保險會社ハ總會終結ノ後遲滯ナク商法第九十條ニ掲ケ  
タル書類及ヒ總會ノ決議録ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第一百四條 保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ保  
險會社ノ定時總會終結ノ後營業報告書、財産目錄若クハ貸借對照  
表ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得  
但保險會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本  
ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス

第一百五條 保險會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコト  
ヲ得ス

生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル會社トハ合併



ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 保險會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出タシ其認可ヲ得ルコトヲ要ス

第七條 保險會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財産ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應シテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保險金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス

第十條 第九十七條及ヒ前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

ス

商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ第九十七條ニ禁止シタル兼業ヲ爲スモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得

第十一條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條、第一百五條乃至第一百九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第十二條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第十三條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第四百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得



第一百四十四條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條及ヒ第一百十條第

二項ノ規定ハ商法施行前ヨリ保險事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

第一百五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ

營ム場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第一百十六條 保險會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第一百七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商

事ニハ之ヲ適用セス

第一百十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意

思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相

場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ

賣却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第一百十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ

本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施

行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス

第一百二十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル

指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル

匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定

ム

第一百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒

絶證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨ

リ、支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其

作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタ

ル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合

ニ於テハ其日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算

シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完

成ス

第一百二十四條 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定



ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レル要件ヲ具備セサルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第二百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第二百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ貸貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百

七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第三百十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第三百十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第三百十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發



生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第三百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十九條 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス

債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

第四百十條 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第四百十一條 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第四百十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ第四百十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社



員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第四百四十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十五條第三項ハ之ヲ削除ス

第四百四十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半数以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

### 附 則

第四百四十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百四十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十二條、第二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第

四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

### 法律第四十九號參照

第六十六號布告利息制限法(明治十年九月十一日)抄錄

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料料等ヲ差出スヘキニトテ約定スルコトアルトモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

法律第二號公證人規則(明治十九年八月十三日官報)抄錄

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り而識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス  
公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス而識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り而識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

明治二十三年<sup>八月九日官報</sup>法律第六十號ハ商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ナリ



英語世界記者森川乙猪著

# 英語異同辯

## 新刊

正價金 四拾五錢

郵税金 六錢

字義の似て異なるもの即ち see と look と又は in と on と等の區別を知らずして英文を読み英文を草せんとするは恰も刀劍の鋭鈍を知らずして戰場に臨むが如し此の書は字義の異同を辯明するを周到にして丁寧に之れか例題を掲げたれば一讀の下に會得せん英學生必讀の良書なり

楠原 鮎太郎 編纂

● 學生必携 **教場會話**

定價 十二錢  
郵税 四錢

### 發兌元

東京市神田區  
裏神保町

### 上田屋書店

船舶法 船員法

七



陸羯南、犬養木堂、三宅雪嶺、福本日南、山田愛川、總評  
奠南 山田喜之助君著

# 行餘集

定價金 貳拾錢

郵税金 四錢

郵券代用 一割増

君子行うて餘あれば則以て文を學ぶべし孔丘は古の聖とする所春秋魯論顧思ふに是れ行ふの餘に成しもの其の他六經を刪定する皆行ふの餘に成ざるなし之を行ふて餘あり則時に胸中の磊塊を吐く蓋し丈夫の本領たらずんばあらず行餘集是に於て乎在り爐邊燈下試みに之を讀め

吉田松陰愛讀書 春聲大幸純著

## 和産

## 語

正價二十錢(郵税共)

郵券代用 一割増

要するに本書は人間治生の一大奇書にして、尋常儒家の一瓢一箪の迂論を排し、讀者をして脚を産業上に立て道を天下に行はしめんとするに在り、佐久間象山、吉田松陰の見識一世に超越し俗流を壓したるは實に此書の教ゆる所に由る、豈に方今青年の爲めに立脚治生の重寶と謂はざるべけんや

## 法律四十六號

明治三十二年三月八日

## 船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナル

員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナル

モノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ

日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社

員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶

トス



陸羯南、犬養木堂、三宅雪嶺、福本日南、山田愛川、總評  
莫南、山田喜之助、君著

# 行餘集

君子行うて餘あれば則以て文を學ぶべし、孔子は古の聖とする所春秋魯論、顧思ふに是れ行ふの餘に成しむの他の六經を刪定する者行ふの餘に成さるなし之を行ふて餘あり則時に胸中の磊塊を吐く蓋し丈夫の本領たらずんばおらず行餘集是に於て乎在り爐邊燈下試みに之を讀め

吉田松陰愛讀書 春臺大宰執著

## 和産

## 語

正價二十錢(郵税共)  
郵券代用 一割増

要するに本書は人間治生の一大奇書にして、尋常儒家の一瓢一筆の迂論を排し、讀者をして脚を産業上に立て道を行はしめんとするに在り、佐久間象山、吉田松陰の見識一世に超越し俗流を壓したるは實に此書の教ゆる所に由る、豈に方今青年の爲めに立脚治生の重責と謂はざるべけんや

### 法律四十六號 明治三十二年三月八日

### 船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
  - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
  - 三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
  - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス



第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ

於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若シハ條約ニ別

段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大

臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄ス

ル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ

囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルト

キハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測

度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管

海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ

交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書

又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ

又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名

稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコト

ヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ル

ニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更

ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官

廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事

實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ

船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請ス



ルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到著シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキハ解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキ亦同シ

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ籍船港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十三條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス



第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ悞狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス



第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有効期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス



本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法

ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

### 法律第四十七號

(明治三十二年三月八日)

## 船員法

### 第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

### 第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラ

## 船員法



ス

一 氏名

二 本籍地

三 身分

四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケルタモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ

一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後遲滞ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員



手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

### 第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳

ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス



第十八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作  
リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷  
ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去  
ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護  
ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港  
ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキ  
ハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命  
ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ  
此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在  
ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法  
令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタル

トキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖  
ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルト  
キハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ  
指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルト  
キハ運航ニ従事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行  
フ

#### 第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若ク  
ハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申  
請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項  
ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要



ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲ス

コトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請



スルトキハ此限ニ在ラス  
 第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀律

- 第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得
- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
  - 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
  - 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
  - 四 海員カ喧争シタルトキ
  - 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ
  - 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
  - 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
  - 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

- 九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
  - 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
  - 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
- 第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 監禁
- 二 上陸禁止
- 三 加役
- 四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス  
 上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス  
 加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス  
 減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス  
 第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上



ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危険物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰則

第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五

日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 處僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ



二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ  
三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒテ職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ  
第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從



セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 船長カ第二十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助カヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス



第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セザルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脫船シタルトキハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆沒シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ



其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滯ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

對照 修正新商法 終



最近  
改正

# 東京入學便覽

正價 十八錢  
郵税 四錢  
切手代用 一割増

今や將に遊學の好時期は來らんぞす本書は綿密なる注意と正確なる調査に依り増補訂正第四版を發刊して遊學諸子の好案内者たらんとを期せり、載する所は諸學校規則。修學費用等より各學校の狀況等にして加ふるに修學の餘暇なき者の爲めに自宅獨習通信教授所をも編入したれば一讀以て都下の學況を悉知するを得べし

東郷先生細田謙藏著

## 傍訓 文章軌範讀本

正價 金拾五錢 郵税 四錢  
郵券代用ハ一割増爲替ハ神田一ツ橋ハ

傍訓文章軌範讀本ハ細田東郷先生ガ本文ニ殘ラズ假名ヲ施シ師匠ニ就カズシテ獨リ學問ノ出來ル様ニ極メテ丁寧ニ極メテ正確ニ讀方ヲ示サレタルモノナリ且古來ノ讀方ヲ改良セラレタルモノナレハ漢文ヲ作ルニモ假名交リ文ヲ作ルニモ文章ノ節奏即チ口調ヲ善クスルニナ得ルナリ

## 發兌元

東京市神田區  
裏神保町

## 上田屋書店

## 附錄

### 非訟事件手續法中改正法律

九



作文之良材 談柄之源泉 故事海

全三冊 四百卅餘頁 價卅八錢郵稅トモ

本書ハ百珍ノ故事數千類聚シ文章和歌俳諧都々一等ヲ以テ短評シ筆頭是ニ關ル沈痛ニ微妙ニ壯快ナル名家ノ詩ヲ列スルヲ幾百千一見博識文忠湧出シ一讀譬ヲ善クシ筆路暢達スベシ苟モ文家又ハ演說ヲ成ントスル諸君一讀スレバ裨益多カルベシ

# 作文三法

文章構成法  
文章修飾法  
文章熟達法

本書は著者卓抜の識を以て第一に文章論及其構成法、第二に文章修飾法、第三に文章熟達法の三篇に分ち丁寧周到の作文の法を講述せられし者にして要は和漢洋に通ずる作文法を示すに在り此れ蓋し本書の特色簡にして盡せる者ぞ謂ふべし

## 法律第五十一號 (明治三十三年三月十日)

### 非訟事件手續法中改正法律

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

第三十七條 第三百三十六條乃至第三百三十八條及ヒ第三百七十五條乃至

第三百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百

百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル

場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ

負擔トス

第二百一十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更

ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リ

テ之ヲ爲ス

非訟事件手續法中改正法律



古志學人錄

# 作文之良材 故事海

全三冊 四百卅餘頁 價卅八錢郵稅トモ

本書ハ百珍ノ故事數千類聚シ文章和歌俳諧都々一等ヲ以テ短評シ筆頭是ニ關ル沈痛ニ微妙ニ壯快ナル名家ノ詩ヲ列スルヲ幾百千一見博識文思湧出シ一讀覺テ善クシ筆路暢達スベシ荷モ作家又ハ演說ヲ成ントスル諸君一讀スレバ裨益多カレベシ

# 作文

# 二三法

文章構成法  
文章修飾法  
文章熟達法

本書は著者卓抜の識を以て第一に文章論及其構成法、第二に文章修飾法、第三に文章熟達法の三篇に分ち丁寧周到の作文の法を繰述せられし者にして要は和漢洋に通ずる作文法を示すに在り此れ蓋し本書の特色簡にして盡せる者と謂ふべし

## 法律第五十一號 (明治三十三年三月十日)

### 非訟事件手續法中改正法律

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

第三十七條 第三百三十六條乃至第三百三十八條及ヒ第三百七十五條乃至

第三百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

第二百二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

非訟事件手續法中改正法律



申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二百二十六條 商法第四十七條、第四十八條、第一百十一條第二項、第二百二十四條、第六十條第二項、第九十六條第二項、第九十八條及ヒ商法施行法第九十五條第二項、第一百二條第二項、第一百十條第二項ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス  
商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シタル株式會社ノ本店所在地ノ 裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百二十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百一十一條 商法第一百一條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由、同法第六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ説明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條 商法第四十七條、第四十八條及ヒ商法施行法第二百二條第二項ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ム



前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條 會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第三百三十五條シ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百三十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第三百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及ヒ前二條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十二條及ヒ第二十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス  
第三百三十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三百六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其登記ヲ申請スヘシ



第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 株主名簿

三 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ於テハ各發起人ノ

引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面、株主ヲ募集シタル

場合ニ於テハ各株主ノ株式申込證

四 取締役及ヒ監査役又ハ検査役カ商法第三百二十四條ノ規定ニ

從ヒテ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本

六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七 開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スヘキ定款ノ定アルトキハ之ヲ認可シタル裁判ノ謄本

八 會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ免許ヲ受クヘキモノナルトキハ其免許書又ハ其認證アル謄本

九 創立總會ノ決議錄

第八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ裁判所ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其

裁判ノ謄本、株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添

附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏、名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第九十四條ノ次ニ左ノ四條ヲ加フ

第九十四條ノ二 舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ



商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
  - 二 株主名簿
  - 三 各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
  - 四 設立免許書
  - 五 創業總會ノ決議錄
- 第百八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十四條ノ三 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株主名簿
  - 二 新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
  - 三 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
- 第百九十四條ノ四 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ

於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 舊商法第二百七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
  - 二 資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
- 第百九十四條ノ五 舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
- 一 株金ノ拂込金額ヲ證スル書面
  - 二 債券原簿
  - 三 主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本
  - 四 債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十八條 第百八十九條乃至第百九十一條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加若クハ減少又ハ社債ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス



第二百五條 削除

第二百六條 民法第八十四條、第一千七百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十一條、第二百六十二條、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條、第九十五條第三項ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラレヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス  
第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ  
當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス  
抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ

負擔トス

第二百九條 非訟事件手續法其他従前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム



金言評論十百章蒐輯

作文演說論好材料

志士必讀之書

# 辭一千金

本書は讀者の讚迎を得る第二版を増刊せり

三島中洲先生引

石川鴻齋先生序

古志學人編述

袖珍頗美本

正價

金貳拾錢

郵税四錢

爲替は神田

一ツ橋取扱

所宛〇郵

券代用は

一割増

店書屋田上町保神裏區田神市京東元兌發

## 不動産登記法



千葉昌胤述

# 新寸鐵

全一冊郵稅共金拾錢

演說の材料 漢讀の補翼 文章の參考 英學の裨益  
批評の龜鑑 處世の方針 翻譯の軌範  
政治法律道德文學に關したる和漢洋の格言及び詩歌を取り來りて一々時世を諷したる犀利  
絶群の短評を試みたる者にして鋒銛前なく筆々飛火有り批評の好軌範處世の指針演說作文  
の良材料也

吉谷 干城子題 海舟先生維新時代ノ肖像挿入  
本 襄 撰 富田鐵之助賛

## 海舟先生 氷川清話

正編 定價二十五錢 郵稅四錢  
續編 郵券代用一割増  
續々編 (郵便爲替ハ神田一ツ橋エ)

## 發賣所

東京神田表神保町

上田屋 長井庄吉

## 法律第二十四號

(明治三十二年二月二十四日)

## 不動産登記法

### 第一章 總則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

登記、財三、九、  
八、財三、四、  
七、民三、六、  
五、民一、六、

- 一 所有權
- 二 地上權
- 三 永小作權
- 四 地役權
- 五 先取特權
- 六 質權
- 七 抵當權
- 八 賃借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

不動産登記法



千葉昌胤述

# 新評

## 寸鐵

全一冊郵稅共金拾錢

演說の材料

漢讀の補翼

文章の參考、英學の裨益

批評の龜鑑

處世の方針

翻譯の軌範

政治法律道德文學に關したる和漢洋の格言及び詩歌を取り來りて、一々時世を諷したる犀利  
絶群の短評を試みたる者にして、録銜前なく筆々飛火有り批評の好軌範處世の指針演說作文  
の良材料也

吉谷

本

千城子題

海舟先生維新時代ノ肖像挿入、  
富田鐵之助贊

海舟

先生 氷川清話

正編 定價二十五錢 郵稅四錢

續編 定價二十五錢 郵稅四錢

續々編 定價二十五錢 郵稅四錢

郵便爲替、神田一ツ橋

### 發賣所

東京神田  
表神保町

上田屋 長井庄吉

## 法律第二十四號

(明治三十二年  
二月二十四日)

### 不動産登記法

#### 第一章 總則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移  
轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

- 一 所有權
- 二 地上權
- 三 永小作權
- 四 地役權
- 五 先取特權
- 六 質權
- 七 抵當權
- 八 賃借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

不動産登記法

二六三

登一、九、  
民財三四、  
八、民一  
七、七、  
五、七、  
六

三取八、  
三三、  
六



○、獨民  
一、草八、四  
四、一、項  
同民二、草  
八〇三

民財三五

一、民財三五

一、民財三五

民三〇六  
三二五〇  
三二九〇  
三三一九

一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ  
二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權  
ヲ保全セントスルトキ  
右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ  
確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ  
回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ  
因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル  
場合ニ限ル

第四條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記  
ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主  
張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生  
シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ  
別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

三三六二  
三三六二  
三三六二  
三三六二

三三六二  
三三六二  
三三六二  
三三六二

三三六二  
三三六二  
三三六二  
三三六二

三三六二  
三三六二  
三三六二  
三三六二

三三六二  
三三六二  
三三六二  
三三六二

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ  
依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル  
第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位  
ハ其前後ニ依ル  
假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依  
ル

### 第二章 登記所及ヒ登記官吏

第八條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁  
判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産カ數個ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セ  
テ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定  
ス

\*第九條 町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙  
登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記  
簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

不動産登記法



所構成法  
一、五、二  
行條同施  
一、六、一  
令、六、四  
號、一、三、四  
二、一、三、四  
\*二項三、四  
二七、一、二  
明治三二、九  
年、三、九  
號、地、三、九  
三、規、則、二  
帳、同、二  
四、年、五、月  
一、六、日、高  
知、縣、地、方  
裁、判、所、伺  
八、月、一、三  
日、司、法、省  
通、牒  
▲地租條

一個又ハ數個ノ不動産ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動産ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條 登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若シハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナシ其旨ヲ土地臺帳所管應ニ通知スルコトヲ要ス未登記ノ土地ニ付キ所有權ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

土地臺帳所管廳ハ土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字、番號ノ變更アリタルトキハ遲滞ナシ其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十二條 登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏

例一、  
土地臺帳  
規則一、  
二、獨登

民財三五  
五、民擔  
二八九

登取一

取一二、  
二項

ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ  
前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス  
第十三條 登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章 登記ニ關スル帳簿

第十四條 登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス  
各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得  
第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備

不動産登記法



同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數個ノ區畫ニ跨カルトキハ其一個ノ區畫ノ登記簿ニノミ其不動産ニ關スル用紙ヲ備フ

登取二

第十六條 土地登記簿ハ其用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙

丁戊ノ五區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各土地ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及ヒ此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

登取二

第十七條 建物登記簿ハ其用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙

丁ノ四區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

登取四

第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコ

不動産登記法



トヲ要ス

△第十九條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

◎第二十條 登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存

スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ

交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限り登記簿又ハ其附屬書類

ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

\*第二十二條 登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合

ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ掲ケタ

ル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキ

ハ此限ニ在ラス

第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法

△登三、四、八、  
◎登一、一八、  
一、取、財、四、  
三、四、九、  
三、項、九、  
登、一、〇、  
一、一、  
獨、登、一、五、  
八、年、二、月、二、  
曹、會、決、議、  
二、八、  
登、取、三、七、  
二、項、明、  
治、二、四、年、  
福、島、地、方、  
裁、判、所、上、  
申、請、對、上、  
ル、司、法、省、  
指、令、  
登、一、三、

二、獨登  
一、八

大臣ハ三個月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

### 第四章 登記手續

#### 第一節 通則

第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法

登一〇、  
民財三四  
九二項  
登八、一  
項



登一六、明一七、治二一、法三、號國稅三、納處分法、四二、年法律同、四號會計、法二、四

登一八、明二五、年二月七、日司法省、內訓

第二十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條 官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條 官廳カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

官廳カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滞ナク囑託

書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳カ登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲモ添附スルコトヲ要ス

官廳カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滞ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ

二、學取、八、一、六、二、二、一、項、同、登、六、四、二、章、獨、民、一、八、〇、四、一、項

二、章、八、〇、四、一、項、獨、民

規則



三、民財  
三、五、二、  
項、四

得  
第三十四條 豫告登記ハ第三條ニ掲ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス  
一 申請書

二 登記原因ヲ證スル書面

三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四 登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及

ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

△七、明登  
取六、九、明  
治一、九、年  
一、二、月、司  
法省令、二  
五

對裁大、年、明、項、取、一、五、一、登、  
訓判坂一、治、六、一、一、一、  
ス判所始一、七、一、一、  
ル所ニ審月九、一、

二 地目及ヒ段別又ハ坪數

三 申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所

五 登記原因及ヒ其日附

六 登記ノ目的

七 登記所ノ表示

八 年月日

第三十七條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條 登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ

總則

司法省令  
五、號、登、  
四、求、手、續、  
五、

民一、二、  
七、二、項、  
五、七、九、  
五、八、〇、

民二、四、九、  
二、五、〇、

二、五、〇、

二、五、〇、

總則







○草八項、同二  
 二、三、明治四  
 月二、三、六、日  
 小、判、所、始、審  
 對、裁、所、司、  
 法、省、訓、令、  
 九、六、登、取、  
 四、六、登、一、  
 獨、登、三、登、  
 八、法、一、錄、  
 一、乃、至、一、  
 三、五、明、治、  
 二、五、年、七、  
 月、六、日、法、  
 會、決、議、  
 登、七、

モノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ
  - 二 事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ
  - 三 當事者カ出頭セサルトキ
  - 四 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
  - 五 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト抵觸スルトキ
  - 六 第四十二條ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ
  - 七 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ
  - 八 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セサルトキ
  - 九 登録稅ヲ納付セサルトキ
- 第五十條 表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ

記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登記スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十一條 登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登記義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第五十二條 表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條 附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用キ其番號ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條 假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ

總則

七、民三  
 七、五、二  
 項、三、九  
 三、五〇二



餘白ヲ存スルコトヲ要ス

第五十五條 假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條 權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

月一九三

前項ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

四四、五

第六十條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書

一

面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ氏名、住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

四四、獨  
登五五

第六十一條 第四十四條ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ登記義務者又ハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

總則



第六十二條 官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十四條 第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

獨、登五  
四、戶四  
○  
五六、五  
七、民財  
三、五、四、  
四、項、民、擔  
二、三、七、  
二、三、八、  
民、擔、二  
三、七、

八、登、一

九、二、項、  
字、登、二、七、

第六十七條 第九條第二項ノ場合ニ於テ乙登記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十八條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一個又ハ數個ノ不動産ノ所在地カ甲登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其不動産ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條 第二十三條ノ場合ニ於テハ登記權利者ノミニテ登記ノ

總則



回復ヲ申請スルコトヲ得

第七十條 前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番  
號、申請書受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ  
添附スルコトヲ要ス

第七十一條 第六十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキ  
ハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ  
新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號  
欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前登記ノ申請書受附ノ年月日  
及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條 第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル期間中新登記ノ申  
請アリタルトキハ假設登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テハ登記濟證ニ假設登記簿ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ  
記載スルコトヲ要ス

第七十三條 假設登記簿ニ爲シタル登記ハ第二十三條ノ規定ニ依リ  
テ定メタル期間滿了ノ後遲滞ナク之ヲ登記簿ニ移スコトヲ要ス此  
場合ニ於テハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順

序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ假設登記簿ニ於ケル登記  
番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十七條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ其不動産ニ關スル假設登記簿ノ用  
紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第七十四條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於テ回復シタ  
ル登記アルトキハ新登記ノ順位番號欄ニハ回復シタル登記ノ順序  
ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ當事者ニ  
對シ之ニ本登記濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登記ト  
假設登記簿ヨリ移シタル登記ト抵觸スルトキハ同時ニ其旨ヲ通知  
スルコトヲ要ス

當事者カ登記濟證ヲ申請スル場合ニ於テハ假設登記簿ニ於ケル登  
記ノ登記濟證ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタルトキハ第六十條ノ規定ヲ準用ス  
第七十六條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキ



登取三  
二、公證  
一、規則三

ニ至リタルトキハ新用紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
前用紙中表題部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第七十七條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス  
金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用キルコトヲ要ス  
文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

### 第二節 所有權ニ關スル登記手續

民二五  
六、一項、  
二六四

第七十八條 所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其部分ノ表示ヲ爲シ若シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

登取二  
三、一項

第七十九條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合、滅失若クハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數ヲ記載シ又ハ新地目、新字若クハ新番號ヲ記載スルコトヲ要ス

登二三

第八十一條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

登取一  
三、字登  
六〇

第八十二條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示所有權ニ關スル登記手續



欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

登取二二、  
登取一五、  
登六六、  
登六五、  
登六六、  
登六九、  
登七六、  
登六九

第八十三條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル

登取一  
六、二、三、  
登六〇

登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

八二、二、  
項八三、  
登取八三、  
六、二、三、  
登六三、  
登六一、  
登六二、  
登六三

第八十五條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

所有權ニ關スル登記手續



六五乃至  
六九

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ其登記カ合併シタル部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

三、三項  
三、三項

第八十六條 甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合筆ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

三、四項  
三、四項

第八十七條 前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其登記カ甲地タリシ部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地タリシ部分ノミカ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

三、四項  
三、四項

第八十八條 土地ノ段別又ハ坪數ノ増減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ増減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十九條 地目、字又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番號ノ變更ノ登記ノ申請書ヲ受附タル時ニ於テ未タ土地臺

所有權ニ關スル登記手續

三、二項  
三、二項  
四項  
一、四  
一、四  
一、四



項、四項

民財四  
〇、民二  
〇、八、一  
項、登取  
一三

二九二

帳所管應ヨリ此等ノ事項ニ關スル通知ヲ受ケサルトキ又ハ其申請書ニ記載シタル登記ノ目的カ土地臺帳所管應ノ通知ト符合セサルトキハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス但登記ノ目的カ申請書ニ添附シタル土地臺帳原本ト符合スルトキハ此限ニ在ラス

第九十一條 建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其滅失、其建坪ノ増減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス  
建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號又ハ段別若クハ坪數ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ滅失、増減若クハ新築シタル建坪並ニ現在ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新地目、新字若クハ新番號又ハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ増減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條 建物ノ分合、其構造ノ變更、其滅失又ハ其建坪ノ減少

登取一三

ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第九十五條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

所有權ニ關スル登記手續

二九三

民二〇  
八、舊民  
財四〇



第九十六條 第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條 甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條 第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百條 第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更又ハ建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號ノ變更又ハ段別若クハ坪數ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

第一百一條 不動産ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不產動ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ

其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第一百二條 前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動産カ他ノ不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ滅失シタル不動産ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動産ノ滅失シタルコトヲ附記シ其不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動産ノ表示ヲ朱抹

所有權ニ關スル登記手續



明治二二  
年法律第  
一四九號  
地收用法  
五、四、三、五

スルコトヲ要ス

他ノ不動産ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク  
前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス  
前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク第一項ニ定メタル手續ヲ  
爲スコトヲ要ス

第三百三條 土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ  
之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ收用シタル土地ノ全部又ハ一  
部カ不用ニ歸シタル場合ニ於テ舊所有者カ買戻權ヲ有スル旨ヲ記  
載シ補償金ノ受取證又ハ預證ヲ添附スルコトヲ要ス

官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滯ナク前項  
ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四條 不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當  
該官廳ハ遲滯ナク世襲財産ノ創設ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコト  
ヲ要ス

第四百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申  
請スルコトヲ得

第九九號  
令第三四  
號華族世  
襲財産法  
三、一、五

登四〇  
項、二  
登四〇  
項、二  
登四〇  
項、二  
登四〇  
項、二  
登四〇  
項、二  
登四〇  
項、二

一 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者  
トシテ登録セラレタルコトヲ證スル者

二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

○ 第四百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申  
請スルコトヲ得

一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラ  
レタル者

二 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ  
所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證スル者

三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ  
所有權ヲ證スル者

四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル  
者

第七條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請  
書ニ第五百五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ  
記載シ必要ナル證明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ

所有權ニ關スル登記手續

二九七

明治二二  
年一月一  
日以前  
橋區裁判  
所問合ニ



對スル司  
法省回答

登記一〇、  
一、  
獨登四五

圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及ヒ其日附ヲ記載シ又ハ第  
三十五條第二號乃至第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セ  
ス

第百八條 未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登  
記番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條 第百二十八條及ヒ第百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動産  
所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百十條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ登記所ニ  
囑託スル場合ニ於テハ第百五條又ハ第百六條ノ規定ニ依リテ證明  
ヲ爲スコトヲ要セス

### 第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル

#### 登記手續

民二二六  
八六、  
二六

第百十一條 地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ  
申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續

民二二七  
八〇、  
二七

期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要  
ス

第百十二條 永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ  
ハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料、支  
拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二  
百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

民二二八  
一〇、  
二二八  
五、  
二二八  
六

第百十三條 地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ  
要役地ノ表示ヲ爲シ地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記  
原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但  
書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

民三三五  
乃至三二  
八

第百十四條 地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動  
產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ承役地タル不動産ノ表示ヲ爲シ其  
不動産カ地役權ノ目的タル旨、地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載  
スルコトヲ要ス

要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ承  
役地、要役地、地役權設定ノ目的並ニ範圍及ヒ申請書受附ノ年月  
所有權ニ關スル登記手續



日ヲ通知スルコトヲ要ス  
前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動産ノ登記  
用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要  
ス

第百十五條 先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書  
ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載  
スルコトヲ要ス但不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費  
用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十六條 質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申  
請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ定  
アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定ア  
ルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但書ノ  
定アルトキ、第三百五十六條若クハ第三百五十七條ノ規定ニ異ナ  
リタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載  
スルコトヲ要ス

民三七五、  
三七六

第百十七條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ

債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關ス  
ル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條  
件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ  
記載スルコトヲ要ス

民三三六  
九、二項

第百十八條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申  
請スル場合ニ於テ其權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ申  
請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

民三三六  
五、三七

第百十九條 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設  
定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ  
要ス

質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質  
權又ハ抵當權カ債權ニ共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要  
ス

第百二十條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、  
質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申  
請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

所有權以外ノ登記手續







テハ申請書ニ賃貸人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス  
第二百二十八條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百二十九條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百三十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命ス

ル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十二條 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百三十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ依リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十四條 前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ヲ目的トスル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第二百三十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ所有權以外ノ登記手續



保存ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ヲ新築スヘキ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲スニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第

百六條及ヒ第一百七條ノ適用ノ妨ケス

附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ建物ノ表示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産工事ノ先取特權ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

#### 第四節 抹消ニ關スル登記手續

第四百十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

民訴七六 第四百十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト

抹消ニ關スル登記手續



四乃至  
五、七、六  
六、七、六  
九、七、六  
一〇三

共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百三十三條 華族世襲財産ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク華族世襲財産ノ創設ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

民財三五

第四百四十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提

二、三項、  
四項

起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判力確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

六、二項  
一

第四百四十七條 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

明治三二

第四百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分

抹消ニ關スル登記手續



年法律第  
三〇號國  
稅滯納處  
分法四  
三、民訴  
七〇〇一  
項二號、  
三號

明治二二  
年法律第  
一九號土  
地收用法  
二、三、  
項二、二

登二二、  
獨登六、  
八、六九、  
裁判所構  
成法二號  
六、二號

登二二、  
獨登六、  
八、六九、  
項七〇、  
一、九、  
法省令甲  
三號抗  
告、三

獨登七三、  
民訴四五、  
六、  
明治一九  
年司法省  
令甲第三  
號抗告手  
續七三、  
同上抗告

ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關  
スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權  
又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス  
◎第四百十九條 第三百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ  
登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所  
有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消  
スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ  
在ラス

### 第五章 抗 告

◎第五百十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁  
判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得  
◎第五百十一條 抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス  
◎第五百十二條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其憑據ト爲ス  
コトヲ得ス  
△第五百十三條 登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日内ニ意  
見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ  
要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記  
ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコト  
ヲ要ス

\*第五百十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有セス

◎第五百十五條 抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スル  
コトヲ得

◎第五百十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以  
テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ  
要ス

◎第五百十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

◎第五百十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲スト  
キハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲  
ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

◎第五百十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定  
抗 告



手續四、  
獨登七三、  
ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得  
第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用  
ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

附則

同抗告  
手續六、  
獨登七四、  
月二〇七、  
獨登七五、  
第百六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第百六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記  
ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第百六十二條 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年  
第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ  
權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請  
セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ  
前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル  
第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム  
第百六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後

同上抗告  
手續一、  
獨登一、  
七六、  
民訴四六、  
民訴一三、  
六乃至一、  
五八、  
訟二六、  
至三二、

登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記  
番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載  
シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當  
區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號  
及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ノ中新登記簿ノ用紙ニ移シタル番  
號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス  
第百六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム



# 英語世界

材料豐富 記事完備 體裁整正

大學講師 神田乃武先生贊助  
文學博士 外山正一先生贊助

第四卷三號 六月十日發行

- ◎法令文英譯
- ◎日常慣用語
- ◎書簡用文
- ◎雜居準備談
- ◎和文英譯
- ◎警察用語
- ◎英和會話
- ◎英字新聞拔萃
- ◎流行讀本註解
- ◎初學作文心得

初號以下 五版四版 出來 取揃文へ

定價二十部一錢八  
 替振込神田一錢四  
 爲部八錢 郵稅各五  
 部六郵稅各五 所取

發行所 神田町七番地 英語世界社

發賣所 東京神田區 裏神保町 上田屋書店

國籍法 供託法 附屬法令



# 英語講習雜誌

英語早學 假名適用

英語は世界語りなる、處日の没する處なし  
英語は商工業の本源たる 英米兩強國の國語也  
内地雜居は英語の必要を益々切迫ならしむ

本會は通信教授の最新良法に則り最近英語を實用的に又た最も速成に  
講習す教授の方案は開發的順序を以て最新語學研究を採用し毎月一回  
講義雜誌を發行し第一卷十二號を以て第一期を卒業せしめ講義録は  
文部省令に則り活字は頗る大形を用い其活  
字の種類を分ちて類別に便にせり  
講習證書一期を通じて講習し終りたる會員には志  
望により試験の上講習證書を附與すべし

一冊十錢 半期六冊六拾錢 一期十二冊壹圓拾四錢 郵税二冊金一錢宛

東京神田區今小路一丁目一番地

發行所 英語講習會

東京神田區裏神保町

發賣元 上田屋書店

## 法律第六十六號 (明治三十二年三月一六日)

### 國籍法

- 第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ
- 第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス  
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去タリル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス  
一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ

國籍法



# 英語講習雜誌

英語早學 假名適用

英語は世界語り行はる、盛日の没する處なし  
英語は商工業の本源たる、英米兩強國の國語也  
内地雜居は英語の必要を益々切迫ならしむ

本會は通信教授の最新良法に則り最近英語を實用的に又た最も速成に講習す教授の方案は開發的順序を以て最新語學研究を採用し毎月一回講義雜誌を發行し第一卷十二號を以て第一期を卒業せしむ講義雜誌は

文部省令に則り活字は頗る大形を用い其活字の種類を分ちて類別に便にせり

講習證書 一期を通じて講習し終りたる會員には志望により試験の上講習證書を附與すべし

一册十錢 半期六册六拾錢 二期十二册壹圓拾四錢 郵税一册金二錢宛

東京神田區今川小路一丁目一番地

發行所

英語講習會

東京神田區裏神保町

發賣元

上田屋書店

法律第六十六號 (明治三十二年三月一六日)

## 國籍法

- 第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ
- 第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス  
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去タリル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス  
一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ

國籍法



- 二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ
- 三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ
- 四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ
- 五 歸化ヲ爲シタルトキ

第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 本國法ニ依リテ未成年者タルコト
- 二 外國人ノ妻ニ非サルコト
- 三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
- 四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

第七條 外國人ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得  
内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス

- 一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
- 二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト
- 三 品行端正ナルコト

- 四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト
- 五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコト得ス

第九條 左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

- 一 父又ハ母ノ日本人タリシ者
  - 二 妻ノ日本人タリシ者
  - 三 日本ニ於テ生マレタル者
  - 四 引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者
- 前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラス
- 第十條 外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ



日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラス内務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス

歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十四條 日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セサリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十六條 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス

- 一 國務大臣ト爲ルコト
  - 二 樞密院ノ議長、副議長又ハ顧問官ト爲ルコト
  - 三 宮内勅任官ト爲ルコト
  - 四 特命全權公使ト爲ルコト
  - 五 陸海軍ノ將官ト爲ルコト
  - 六 大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト
  - 七 帝國議會ノ議員ト爲ルコト
- 第十七條 前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化ヲ許可シタル者ニ付テハ國籍取得ノ時ヨリ五年ノ後其他ノ者ニ付テハ十年ノ後内務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第十八條 日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ
- 第十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ



離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限リ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十二條 前條ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ適用セス但妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラヌ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラヌ其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

### 附 則

第二十八條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



法律第十五號(明治三十二年二月七日)

供託法

- 第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス
- 第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス
- 第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス
- 第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

供託法



倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付

アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

### 附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



勅令第百三十三號 (明治三十二年四月十日)

商法施行ニ關スル件

商法ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十四號 (明治三十三年四月十日)

登記法施行ニ關スル件

不動産登記法ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

民法商法ニ關スル 附屬法令目錄

民法ニ關スル 附屬法令

法律第四十號 (明治三十二年三月八日)

失火ノ責任ニ關スル法律……………三二七

法律第四十四號 (明治三十二年三月八日)

登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關

スル規定廢止法律……………三二七

大藏省令第六號 (明治三十二年三月十六日)

供託物取扱規程……………三二八

第一號書式 供託書……………三三五

附屬法令目錄



第二號書式 請求書……………三三八

第三號書式 利札領收書……………三三九

第四號書式 供託物拂渡請求書……………三四〇

第五號書式 領收證書……………三四一

第六號書式 請求書……………三四二

第七號書式 拂渡證書……………三四三

第八號書式 利息請求書……………三四五

法律第六十七號(明治三十二年三月十六日) 外國人ノ抵當權ニ關スル法律……………三四五

法律第五十號(明治三十二年三月十日) 外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律自第一條至第三條……………三四六

附則 第三條……………三四七

法律第七十一號(明治三十二年三月二十日) 外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル法律……………三四七

法律第八十七號(明治三十二年三月二十四日) 遺失物法自第一條至第十七條……………三四八

附則 第十七條……………三五三

內務省令第四號(明治三十二年四月八日) 遺失物法施行細則自第一條至第五條……………三五三

法律第九十四號(明治三十二年三月二十九日) 國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律……………三五五



內務省令第十號(明治三十二年四月二十八日)

社團、財團ノ法人タルニ就キ許可認可

ヲ經ヘキ場合申請方自第一條至第二條.....三五五

司法省令第十一號(明治三十二年五月十二日)

不動産登記法施行細則自第一條至第七十六條.....三五六

第一章 登記ニ關スル帳簿自第一條至第三十七條.....三五六

第二章 登記申請ノ手續自第三十八條至第四十六條.....三六五

第三章 登記手續自第四十七條至第七十一條.....三六七

附則自第七十二條至第七十六條.....三七五

附錄第一號 土地登記簿.....三七六

附錄第二號 建物登記簿.....三七八

附錄第三號 土地共同人名簿.....三八〇

附錄第四號 建物共同人名簿.....三八一

附錄第五號 土地登記見出帳.....三八二

附錄第六號 土地分合見出帳.....三八二

附錄第七號 建物登記見出帳.....三八三

附錄第八號 不動産登記受附帳.....三八四

附錄第九號 印鑑.....三八五

司法省令第十二號(明治三十二年五月十二日)

公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル

登記取扱手續自第一條至第十五條.....三八五

司法省令第十四號(明治三十二年五月十三日)

土地登記簿、建物登記簿及ヒ商業登

記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關



スル手数料ノ件自第一條至第六條.....三九〇

六

司法省令第十五號(明治三十二年五月三十一日)

法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱手續

自第一條至第十三條.....三九一

附則自第十二條至第十三條.....三九四

附錄第一號 法人登記簿.....三九五

附錄第二號 夫婦財產契約登記簿.....三九六

附錄第三號 法人登記見出帳.....三九七

附錄第四號 夫婦財產契約登記見出帳.....三九七

法律第五十三號(明治三十二年三月十日)

銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ノ

法律.....三九九

法律第五十四號(明治三十二年三月十日)

印紙稅法自第一條至第十七條.....三九九

附則自第十五條至第十七條.....四〇四

商法ニ關スル附屬法令

法律第五十八號(明治三十二年三月十日)

取引所法中改正法律ノ件.....四〇五

法律第二十七號(明治二十九年三月二十八日)

登録稅法自第一條至第二十一條.....四〇六

附則自第二十條至第二十一條.....四二三

司法省令第十三號(明治三十二年五月十三日)



商業登記取扱手續自第一條至第五十條

附錄第一號 商號登記簿	四三七
附錄第二號 未成年者登記簿	四三八
附錄第三號 妻登記簿	四三九
附錄第四號 後見人登記簿	四四〇
附錄第五號 支配人登記簿	四四一
附錄第六號 合名會社登記簿	四四二
附錄第七號 合資會社登記簿	四四三
附錄第八號 株式會社登記簿	四四五
附錄第九號 株式合資會社登記簿	四四七
附錄第十號 商號登記見出帳	四四九
附錄第十一號 未成年者登記見出帳	四五〇
附錄第十二號 妻登記見出帳	四五一
附錄第十三號 後見人登記見出帳	四五一
附錄第十四號 支配人登記見出帳	四五二

附錄第十五號 合名會社登記見出帳	四五三
附錄第十六號 合資會社登記見出帳	四五四
附錄第十七號 株式會社登記見出帳	四五四
附錄第十八號 株式合資會社登記見出帳	四五五
附錄第十九號 外國會社登記見出帳	四五六
附錄第二十號 商業登記受附帳	四五七
附錄第二十一號 印鑑	四五七
附錄第二十二號 登記簿證	四五八
勅令第二百五號 <small>(明治三十二年五月十九日)</small>	
登錄稅法施行規則 <small>自第一條至第六條</small>	四五八
大藏省訓令第三十八號 <small>(明治三十二年五月二十日)</small>	
登錄稅法施行規則第四條ニ依リ印紙提出者ノアルトキ取扱ノ件	四五九



大藏省訓令第三十九號(明治三十二年五月二十日)

登録稅法第五條及第十六條ノ登録稅

額報告方ヲ定メ登録稅法施行手續

ヲ廢スノ件……………四六一

遞信省令第十九號(明治三十二年五月二十六日)

商法第五百六十二條第一項第二號乃

至第五號ニ掲クル書類ノ件自第一條至第三條……………四六二

第一號書式 海員名簿……………四六三

第二號書式 屬具目錄……………四七二

第三號書式 航海日誌……………四七四

第四號書式 旅客名簿……………四八四

遞信省令第二十號(明治三十二年五月二十六日)

商法施行法第二百一十一條ノ規定ニ依

リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍……………四八七

法律第七十二號(明治三十三年八月二十三日)

銀行條例自第一條至第十一條……………四八八

司法省令第三十四號(明治三十二年六月十二日)

法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿

ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル

手數料ノ件自第一條至第八條……………四九〇

遞信省令第二十四號(明治三十二年六月十二日)



船舶法施行細則 自第一條 至第六十五條 ..... 四九二

第一章 總則 自第一條 至第七條 ..... 四九二

第二章 積量ノ測定 自第八條 至第十六條 ..... 四九三

第三章 船舶ノ登録 自第十七條 至第二十九條 ..... 四九七

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

自第三十條 至第四十二條 ..... 五〇四

第五章 國旗及船舶ノ標示 自第四十三條 至第四十七條 ..... 五〇七

第六章 登録稅、手数料、旅費及日當 自第四十八條 至第五十三條 ..... 五〇八

第七章 罰則 第五十四條 ..... 五一〇

附則 自第五十五條 至第六十五條 ..... 五一〇

第一號書式 積量測定申請書 ..... 五一三

第二號書式 船舶姓名簿 ..... 五一五

第三號書式 船舶國籍證書 ..... 五一八

第四號書式 假船舶國籍證書 ..... 五二二

第五號書式 假船舶國籍證書交付申請書 ..... 五二六

遞信省令第二十五號 (明治三十二年六月十二日)

船員法施行細則 自第一條 至第六十二條 ..... 五三〇

第一章 總則 自第一條 至第四條 ..... 五三〇

第二章 船員手帖 自第五條 至第十二條 ..... 五三一

第三章 船長 自第十三條 至第二十四條 ..... 五三三

第四章 海員 自第二十五條 至第四十八條 ..... 五三七

第五章 手数料 自第四十九條 至第五十條 ..... 五四四

第六章 罰則 第五十一條 ..... 五四六

附則 自第五十二條 至第六十二條 ..... 五四六



第一號書式 船員手帖交付申請書……………五四八

第二號書式 船員手帖……………五四九

第三號書式 海員雇入公認申請書……………五五六

第四號書式 海員雇止公認申請書……………五五七

第五號書式 海員雇入契約更新公認申請書……………五五八

第六號書式 海員雇入契約變更公認申請書……………五六〇

第七號書式 海員名簿滅失(毀損)ニ付公認申請書……………五六一

第八號書式 手数料納付書……………五六二

勅令第二百七十號(明治三十二年六月十五日)

船舶登記規則(自第一條至第五十三條)……………五六三

第一章 總則 第一條……………五六三

第二章 登記所(自第二條至第三條)……………五六三

第三章 登記簿(自第四條至第六條)……………五六四

第四章 登記手續(自第七條至第四十七條)……………五六五

第一節 通則(自第七條至第十三條)……………五六五

第二節 所有權ニ關スル登記手續(自第十四條至第三十條)……………五六七

第三節 抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續(自第三十一條至第四十七條)……………五七四

附則(自第四十八條至第五十三條)……………五七九

勅令第二百七十一號(明治三十二年六月十五日)

小商人ノ範圍ニ關スル件……………五八一

附則……………五八一

勅令第二百七十二號(明治三十二年六月十五日)

外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社並組合ニ關スル件(自第一條至第五條)……………五八一



附則……………五八三

勅令第二百七十三號(明治三十二年六月十五日)

外國保險會社ニ關スル件自第一條至第七條……………五八三

附則……………五八五

司法省令第三十五號(明治三十二年六月十五日)

船舶登記取扱手續自第一條至第二十四條……………五八五

附錄第一號 船舶登記簿……………五九二

附錄第二號 船舶共同人名簿……………五九三

附錄第三號 船舶登記見出帳……………五九四

附錄第四號 船舶登記受附帳……………五九五

附錄第五號 登記證書……………五九六

附錄第六號 印鑑……………五九六

司法省令第三十六號(明治三十二年六月十五日)

船舶書入質ノ公證ヲ經タル證書面ノ

權利ニ關スル登記取扱手續自第一條至第五條……………五九七

司法省令第三十七號(明治三十二年六月十五日)

船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等

ニ關スル手数料ノ件自第一條至第七條……………五九八

農商務省令第十一號(明治三十二年六月十五日)

保險會社ニ關スル細則自第一條至第二十三條……………五九九

附則 第二十三條……………六〇三

書式

第一號 保險營業成績一覽表……………六〇四

第二號 保險契約種類別統計表……………六〇五



第三號 保險契約金額別統計表……………六〇五

第四號 保險被保險者兩姓別統計表……………六〇六

第五號 保險被保險者年齡別統計表……………六〇七

第六號 保險被保險者現住府縣別統計表……………六〇八

第七號 保險被保險者死亡數比較統計表……………六〇九

農商務省令第十一號(明治三十二年六月十五日)

明治二十六年五月農商務省令第十一號廢止ノ件……………六一〇

# 目錄

法律第四十號 (明治三十二年三月八日)

## 失火ノ責任ニ關スル法律

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

法律第四十號參照

法律第八十九號民法第一編第二編第三編(明治二十九年四月二十七日官報)抄錄  
第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ス

法律第四十四號 (明治三十二年三月八日)

## 登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律

失火ノ責任ニ關スル法律  
登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律  
供託物取扱規程



明治十九年法律第一號登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定  
ハ特許法意匠法及商標法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大藏省令第六號 (明治三十二年三月十六日)

供託物取扱規程

- 第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス
- 第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢、有價證券ヲ謂フ
- 第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ヘ提出スヘシ
- 第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名
- 第二 供託セントスル金額
- 有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂込未済ノモ

- ノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込濟額ヲ記入スルコトヲ要ス
- 第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)
- 第四 供託スヘキ法令ノ條項
- 第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置(質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス)及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名
- 第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物
- 第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名
- 第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ
- 第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄托スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

供託物取扱規程



第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作リテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラズ直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作リ利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求

者ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作リ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其

供託物取扱規程



ノ給付ヲ爲シタル金銭、證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作リタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金



庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ  
受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證  
シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換  
ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ

供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求裁判所ヘ返還スヘシ  
第十五條 供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時  
ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニス

ルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ  
第十六條 供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八  
號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計  
算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ヘ本支金庫ニ  
在テハ日本銀行ノ支店、代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルト  
キハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其ノ現

金ヲ交付スヘシ

附則

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反  
對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數  
量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此  
ノ規程ニ抵觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第一號書式 (用紙寸法美濃判紙數二枚以上ニ及フトキハ契印スヘシ以下之ニ同シ)

供託書

(金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村舊地

何 某

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキハ供託者第三者ト記入スヘシ)

一金何圓也

又ハ一何々公債證書額面何圓也

全額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

供託物取扱規程



但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ  
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同  
記號番號枚數記載方前ニ同シ  
前ニ同シ

一何々

供託ノ原因

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定

反對給付ノ目的物

官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名

右供託ス

年月日

何金庫宛

右  
何 某印

(受領書式)

第何號

右受領ス

年月日

(奥書ノ式)

何金庫印

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地  
受取人 何

某印

何金庫宛

(内渡書式)

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ  
箇ヘ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ)  
右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡濟

何金庫印



第二號書式

三三八

請求書

一金何圓也

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス) (所得税法第三條ノ稅額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルモノトス)

何々公債證書(又ハ何々銀行株券)又ハ何會社株券)何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ分前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也

府縣郡市町村番地

何

某印

何金庫宛

(受領ノ書式)

第何號

右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス

年月日

何金庫印

(奥書ノ式) 前書ノ金額正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

何

某印

何金庫宛

(内渡ノ書式)

表書金額ノ内

一金何圓也

右金額何年何月何日内渡濟

(受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)

何金庫印

第三號書式

利札領收證書

一利札券面額何圓也

何枚

但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行若クハ何會社債券額面何圓ニ對スル何年何月又ハ何期渡ノ分

右領收候也

府縣郡市町村番地

何

某印

何金庫宛

年月日

供託者

供託物取扱規程

三三九



第四號書式

三四〇

供託物拂渡請求書

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

(幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ内ト肩書スヘシ)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ供託者ニ於テ取戻ヲナサントスル場合ハ拂渡相受度別紙證明書並ニ供託受領證相添請求候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人(又ハ供託者) 何

某印

何金庫宛

第五號書式

領收證書

(供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人 何

某印

何金庫宛

第六號書式

供託物取扱規程

三四一



請求書

(供託受領證ニ業毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者

何

某

何年何月何日第何號受領證

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々々

内

金何圓也

又ハ

何々公債證書額面何圓也

又ハ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方 前ニ同シ

同 前ニ同シ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

何々々

同 記號番號枚數記載方 前ニ同シ

同 前ニ同シ

府縣郡市町村番地

受取人

何

某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證發行候ニ付分割拂渡スルコトヲ要ス依テ別紙供託受領證相添請求候也

年月日

裁判所名園

官氏名印

何金庫宛

第七號書式

拂渡證書

府縣郡市町村番地

供託者

何

某

何年何月何日第何號受領證ノ内

供託物取扱規程



一金何圓也  
又ハ  
一何々公債證書額面何圓也  
又ハ  
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也  
又ハ  
一何々々  
右金額(又ハ有價證券)府縣郡市町村番地何某へ拂渡スニトナ要ス  
年月日  
何金庫宛  
何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚  
同 記號番號枚數記載方  
前ニ同シ  
同 前ニ同シ  
府縣郡市町村番地  
官氏名印  
受取人 何 某印  
前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也  
年月日  
何金庫宛  
(奥書ノ式)  
前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也  
年月日

第八號書式

利息請求書  
何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也  
府縣郡市町村番地  
受取人 何 某印  
年月日  
何金庫宛  
(利息記入式)  
一金何圓也  
何年何月ヨリ  
何年何月マテ  
利息額  
右之通ニ候也  
年月日  
何金庫宛  
(現金領收ノ式)  
前書之金額正ニ領收候也  
年月日  
受取人 何 某印  
日本銀行本支店宛  
又ハ其代理店宛

法律第六十七號 (明治三十二年三月十六日)

供託物取扱規程 外國人ノ抵當權ニ關スル法律



### 外國人ノ抵當權ニ關スル法律

土地ノ抵當權者ナル外國人カ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額ニ十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落價額トノ差額ヲ負擔スヘキ旨ヲ附言スルコトヲ要ス

法律第五十號 (明治三十二年三月十日)

### 外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律

第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條 民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國

ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ  
日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明力不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

#### 附則

第三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

法律第七十一號 (明治三十二年三月十九日)

### 外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル法律

外國人又ハ外國法人カ改正條約實施前ニ爲シタル不動産又ハ船舶ニ關スル物權ノ得喪及ヒ其變更ニ付登記ヲ爲スヘキ場合及ヒ其登記ノ

外國人ノ抵當權ニ關スル法律  
外國人ノ署名捺印及ヒ無資力證明ニ關スル法律  
外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル法律

三四七



手續ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

法律第八十七號 (明治三十二年三月二十四日)

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

賣却處分ニ對シテハ出訴スルコトヲ得ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費

遺失物法



用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得  
物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條 第十六條ニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利並ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條 管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ  
本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル

者ト折半スヘシ

第十一條 犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限り拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レ



サルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ  
埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ  
本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 本法及民法第二百四十條第二百四十一條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ一箇年内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受クル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ隱匿シ若ハ不正ニ處分シタル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ルトキハ之ヲ

論セズ

### 附 則

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

### 内務省令第四號 (明治三十二年四月八日)

### 遺失物法施行細則

第一條 遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄揭示場ニ揭示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルモノトス  
第二條 遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時ヲ揭示スヘシ但シ揭示ノ場所ヲ有セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

遺失物法施行細則